

続・探鳥のすすめ

高山にいる鳥たち

池沼にいる鳥たち

鳥を見て楽しむ「探鳥」——それは、自然への接し方としては、まったく新しい方法です。いまでも生物を友とする楽しみや趣味はたくさんありました。盆栽、草花の栽培、動物のペット飼育、昆虫や植物の採集、釣りや狩猟など…これらの趣味と、鳥を見る楽しみとは、趣味のもつ本質的なところでは同じかも知れませんが、接する相手に対する態度には大きな違いがあります。探鳥は、相手の生命を失わせたり、傷つけたりすることはありません。ヒトとトリとが同じ立場で接し、行動することなのです。だからこそ鳥も、本来の野生の姿を私たちに見せてくれるのです。

ありのままの生きた自然に接する探鳥の心——そこには、自然へのモラルがきちんとしていなければならない。ごくあたりまえのこと、と言ってしまえばそれまでですが、①草花や小動物を取らないこと。②ゴミを捨てないこと。③音を立てないこと。の3つは、ぜひ守っていただきたいのです。ヒトも自然界の一員ならば、自然に対して誠実に、善意の気持で接する——これこそ、自然保護の第一歩であるということを考えていただきたいのです。愛らしい動物であるトリを、好意をもって見ることから始めましょう。さあ、いってらっしゃい。

●筆記用具

やわらかめのシンの短い鉛筆。ひもをつけて首からかけておくとう便利です。

●鳥類図鑑

鳥の名前がわからなかったり、種類を確かめたりする場合のよい手引きになります。標本画のようなものより、野外での特徴を記してあるものを。

●リュックサック

おべんとうや水筒、雨具などの荷物。はまとめて背中に。両手は観察のために自由に使えるようにしておく。

●双眼鏡

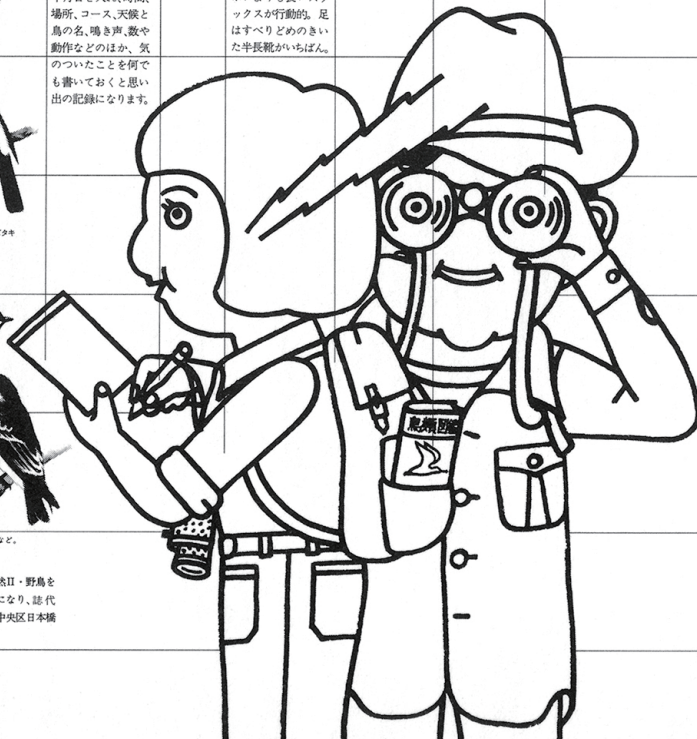
クローズアップで見る鳥の姿はすばらしい。7~9倍くらいのガッチリしたものを選びましょう。

●観察ノート

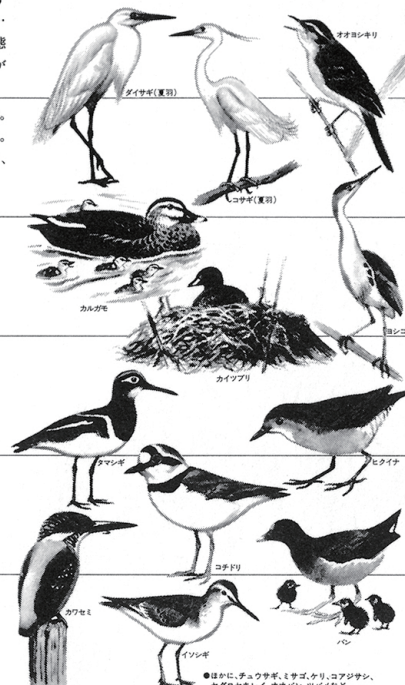
ポケットに入るほどのものが携帯に便利。年月日を入れ、時間、場所、コース、天候と鳥の名、鳴き声、数や動作などのほか、気のついたことを何でも書いておくと思いの出の記録になります。

●服装・はきもの

服装はなるべく地味に。スカートや半ズボンよりも長いスラックスが行動的。足はすべりどめのきいた半長靴かいらばん。



奥山にいる鳥たち



●山の鳥たち——クワガタミ、アカハラ、マミジロ、トラツグミ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、ウグイス、ヤブサメ、ヤマセミ、アオガラ、コガラ、アカガラ、サシバ、サンコウチョウ、ノスリ、ハイタカ、シジュウカラ、エナガ、ヤマガラ、カケス、イカル、ホトトギス、ツツドリ、ヤマドリ、ヒトリドリ、コムドリ、ヨタカなど。
●人里の鳥たち——キジ、コジュケイ、アオバズク、キジバト、ツバメ、コシアカツバメ、ヒバリ、ホオジロ、ムクドリ、ハシブトガラス、スズメ、ヒヨドリ、トビ、カワラヒワなど。
●草原の鳥たち——ウズラ、アカモズ、モズ、ホオアカ、ホオジロ、ノビタキ、ヒバリ、チョウゲンボウ、カウカウ、コシシキリ、オオシシキ、キジ、ノスリ、コジュリン、セッカなど。
●海辺の鳥たち——キアシシギ、キョウジョシギ、ダイゼン、ハマシギ、チュウシャクシギ、オソリハシシギ、シロチドリ、コアシシギ、ウミネコ、クロサギ、イソヒヨドリなど。
●外洋の鳥たち——クロアシアホウドリ、コアホウドリ、オオミズナギドリ、トウゾクカモメ、オオトウゾクカモメ、ハイロミズナギドリ、ハシボソミズナギドリ、シロハラミズナギドリ、コシロウミツバメなど。

●日本鳥類保護連盟にお入りになりませんか。
野鳥を守るとは人間の住む自然環境を守ること——昭和22年に第1回の愛鳥週間を実施してから、鳥獣保護法の制定、国際的な鳥類保護条約の推進、功労者の表彰、関係機関への働きかけ、野鳥保護の普及啓蒙のための出版など、30年におたる活動をばはろく行なっている団体です。皆さんの力で、この活動をより積極的なものにしていただきたいと存じます。50円切手を右記へ。資料をお送りします。〒150東京都渋谷区南平台8-20 (財)日本鳥類保護連盟

財団法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社
●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、ヒトの自然環境の保護を、サントリー株式会社からシリーズとして制作するものです。

●探鳥をはじめる、愛鳥の心をよりご理解いただくためのパンフレット、「美しい自然口・野鳥を見に」ができました。ご希望の方は、お名前・性別・年齢・住所・職業をお書きになり、誌代として切手300円同封のうえ、次の宛先までお送りください。●〒03-91東京都中央区日本橋馬場区内私書箱231号 サントリー株式会社愛鳥キャンペーン「野鳥を見に」係